

# 高崎山 写真 ヒストリー

自然動物園70年



1953年3月開園の高崎山自然動物園を一躍有名にしたのが、今の北九州市若松区出身の芥川賞作家、火野葦平(1906〜60)が手がけた小説「ただいま零匹」と、その映画化だったとされる。

同小説は大分市長として開園に尽力した上田保氏(故人)をモデルに、開園するまでのドラマが描かれている。55年から朝日新聞に連載され、56年に新潮社から発刊された。

映画化は57年9月。監督は藤原杉雄。上田氏役を演じたのは佐野周二(1912〜78)だった。

佐野は昭和の二枚目スター。テレビの情報番組の司会などで活躍している関口宏さん(80)の父親だ。

「映画『ただいま零匹』の

## 「ただいま零匹」で有名に



「ロケの様子」の写真(上、高崎山管理センター提供)は57年9月の撮影。ロケ地は園の「サル寄せ場」で、上田氏役がホラ貝を吹いて高崎山の二ホンザルを集めようとしている

「朝日新聞掲載の小説『ただいま零匹』1回目の拡大口ビー」の写真(下・左)と小説「ただいま零匹」連載開始を伝える朝日新聞記事の拡大

「ビー」の写真(下・右)は今月20日に撮影。いずれも園内「おさる館」2階の「おさる資料室」に展示されている。(原則、第2、第4日曜日に掲載します)

「朝日新聞掲載の小説『ただいま零匹』1回目の拡大口ビー」の写真(下・左)と小説「ただいま零匹」連載開始を伝える朝日新聞記事の拡大

「ビー」の写真(下・右)は今月20日に撮影。いずれも園内「おさる館」2階の「おさる資料室」に展示されている。(原則、第2、第4日曜日に掲載します)

